



I 事業報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/00017061

I 事業報告

■ 大阪府立大学学術情報リポジトリOPERAの10年

はじめに

2009年4月に公開した大阪府立大学学術情報リポジトリ（愛称OPERA：Osaka Prefecture University Education and Research Archives）は、2018年度末で運用開始から10年が経過した。ここでは、OPERA開設から10年の歩みを振り返るとともに、今後の課題について記すこととする。

1 OPERAができるまで（2008年度）

大阪府立三大学（大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学）の統合及び法人化から3年後の2008年4月、国立情報学研究所が日本国内の国公私立大学から公募した「機関リポジトリの立ち上げ構築を支援する委託事業『領域1：機関リポジトリの構築・運用事業』」に応募し、採択された。本学が応募した事業実施内容は、リポジトリの構築、紀要論文のデータ整備、学位論文の収集及び電子化の3点であった。

当時は大学におけるリポジトリの意義や役割が教職員にほとんど認識されていなかったため、教員4名と学術情報課職員4名から成る「機関リポジトリワーキング」¹⁾を6月に立ち上げ、事業実施に向けての課題整理等を行った。11月には、各部局から委員を選出して、図書館委員会の諮問組織として「学術情報リポジトリ運営委員会」を立ち上げ、リポジトリ運営委員会内規とリポジトリ運用指針を策定した。また、学術情報課内に学術情報リポジトリチームを発足させ、委託事業交付金300万円を財源として以下の事業を行った。

2008年12月	講演会「機関リポジトリの目指すもの」開催 講師：筑波大学 逸村裕教授
12月	リポジトリシステムの入札を行いDSpace ²⁾ に決定
2008年12月	リポジトリの名称・愛称を募集し、「OPERA」 に決定（2009年1月）
2009年1～3月	部局説明会実施（教授会等で説明） 全部局 でのべ350名が参加
2～3月	OPERA試験公開

2 OPERA公開（2009年度）

2009年4月、すでにCiNii³⁾で公開されている本学（旧大学含む）発行紀要論文のうち、リポジトリへの掲載が許諾された紀要36タイトルの2,800論文を登録し、正式公開、運用を開始した。

2009年度も国立情報学研究所の委託事業に申請して再び採択され、委託事業交付金300万円を財源に、紀要論文や学位論文の電子化、公開許諾手続きを進めた。紀要類については、個々の著者への許諾手続きの煩雑さを解消するため、以降発表される論文の公開も含めて編集委員会での一括許諾を得ることとし、年度末までに約1,000件の論文を追加登録した。学内教職員の理解と協力を得るため、10月に東北学院大学佐藤義則教授を講師に招き、講演会「機関リポジトリの活用と学術コミュニケーション」を開催した。また、大阪公立大学共同出版会（OMUP）よりOPERAとの連携協力について申し出があり、2010年3月に「大阪府立大学学術情報リポジトリと大阪公立大学共同出版会との連携に関する合意書」を締結し、OMUPが発行する大阪府立大学関係者の刊行物で著作権者の許諾が得られたものをOPERAに登録することとなった。

3 OPERAと学内外の動き

(1) 学位論文の公開

● 国立国会図書館学位論文デジタル化

2012年、国立国会図書館は「国会図書館が1991～2000年に受け入れた博士論文をデジタル化し、著作権処理を行ったものについて、国会図書館又は大学がインターネット公開する。著者の許諾を得られたものについては、大学にデジタル化した学位論文を複製して譲渡する。」という方針を発表し、学術情報流通の促進を目的とした大学との協力、連携が進められることとなった。学術情報課では、国立国会図書館からの協力依頼を受けて、該当する学位論文について著者から許諾を得る作業を行うとともに、2001年以降の学位論文についてもOPERAで公開するよう著者や教員に公開許諾の協力を求め、約100件の学位論文を登録した。

● 学位論文のインターネット公表義務化

2013年4月に「学位規則の一部を改正する省令」が施行され、学位論文の「公表」方法が「インターネットの利用により公表」に改正された。それに伴い、本学でも「学位論文の公表に関する取扱要領」（教育推進課）が施行され、「学位論文は『やむを得ない事由』がない限り、学位を授与された日から1年以内に全文を本学公式ウェブサイト内の学術情報リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）で公表する」ことと定められた。学位論文のデジタル化、インターネット公表という全国的な動きを受けて、OPERAは本学にとって必要不可欠なシステムとなった。

[注]

- 1) 学術情報センター長の指示により、座長（理学系研究科教授）、教員4名（図書部長、工学研究科教授、経済学部教授、人間社会学部准教授）、学術情報課職員4名で構成。
- 2) BSDライセンスで提供されているオープンソースのソフトウェアで、デジタル資産を管理するツール。日本では2007年頃からリポジトリを構築しているほとんどの機関で使用されていた。
- 3) NII学術情報ナビゲータCiNii（サイニィ）は、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報を検索できるデータベース・サービス <https://ci.nii.ac.jp/>

(2) 教員活動情報データベース

2011年、教員活動情報データベースのシステム開発に際して総合調整室（当時システム担当部所）と学術情報課で検討し、教員が自身の研究成果データを入力する際に「リポジトリ登録」を選択できる機能を追加した。「リポジトリ登録」が選択された情報は学術情報課の担当者に自動送信され、OPERAに登録された論文等には、学内外から全文にアクセスできるよう、教員活動情報データベースにリンクを設定している。なお、OPERAに学術雑誌掲載論文を登録する際には、出版社の条件、著作権、データ内容等の確認を行うため、学術情報課と教員との連携、協力が必要である。

(3) オープンアクセス方針

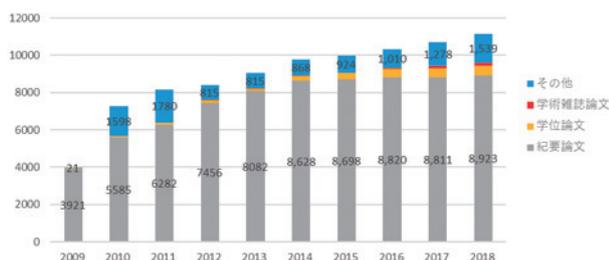
2016年11月、研究公正推進委員会において「公立大学法人大阪府立大学オープンアクセス方針⁴⁾」が承認され、翌年4月より施行された。同方針では本学教職員が公的研究資金を用いて行った研究の成果である論文（2017年4月1日以後に発表されたもの）は、インターネット上で公開することが原則として義務づけられ、その方法として、大阪府立大学学術情報リポジトリが記された。これにより、OPERAはオープンアクセス方針実現のための重要な役割を担うことになった。

4 数字でみるOPERA

(1) 登録数（2009年度～2018年度）

OPERAは約2,800件の紀要論文で運用を開始したが、翌2010年度末の登録件数は当初の約2.5倍の7,200件となり、2016年には10,000件を超えた（図1）。学位論文の登録数は、2013年のインターネット公表義務化以降徐々に増え、2018年度末には500件を超えた。3(1)でも述べたように、原則は「1年以内に全文をリポジトリで公開」することとなっているが、実態としては要約の登録が20%前後を占めており、1年以内に要約、全文ともに登録されていないものもある（図2）。オープンアクセス方針の対象となる学術雑誌論文の登録件数は、同方針が施行された2017年に100件を超えたが、2018年度末時点で181件と全登録数の2%にとどまっている。

（図1）登録件数の推移



※2012年度より登録コンテンツの分類方法が変わったため「その他」が減少

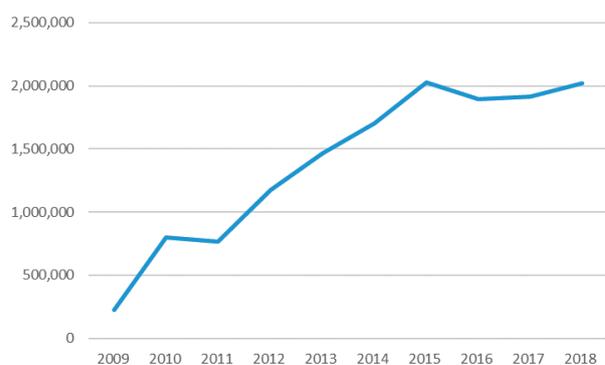
（図2）学位論文の登録件数の推移



(2) アクセス数とダウンロードランキング

アクセス数は、登録数の増加にほぼ比例して増えてきている（図3）。登録コンテンツの8割が紀要論文であることもあり、2018年度のダウンロードランキングの上位には紀要論文が多い（表1）。リポジトリのコンテンツはGoogle等のインターネット検索でもヒットすることから、医療、福祉、ジェンダー等に関連する論文が多く閲覧、利用されていることが伺える。

（図3）アクセス数の推移



（表1）ダウンロード（DL）ランキング（2018年度）

順位	論文名	種別	年間DL数
1	有機化学学生実験における一考察 (2)	紀要論文	4,904
2	身体能力における性差再考：スポーツ・パフォーマンスを中心に	その他	2,811
3	認知症の原因疾患による症状行動の特徴とケアの方針	紀要論文	2,783
4	その言動はセクハラです！：男性はなぜ気づかないのか	その他	2,313
5	出生前診断・選択的中絶をめぐるダブルスタンダードと胎児情報へのアクセス権：市民団体の主張から	紀要論文	1,952
6	新生児集中治療室（NICU）に入院した子どもをもつ母親の思いに関するメタ統合	紀要論文	1,880
7	認知症高齢者をケアする看護師の感情	紀要論文	1,861
8	朝食欠食習慣を持つ大学生のための教育に関する研究	紀要論文	1,779
9	女性と経済：フェミニスト経済学のおゆみ	その他	1,771
10	PWMインバータ駆動ブラシレスDCモータのベアリング電食に関する研究	学位論文	1,650

[注]

4) 2019年の法人統合によって「大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校オープンアクセス方針」（平成31年3月14日施行）に改定された。

5 OPERAのこれから

OPERA開設からの10年で、大学をとりまく環境は大きく変化した。10年前に実施した教員向けリポジトリ説明会ではその意義について否定的な意見も少なくなかったが、学位論文のインターネット公表義務化に際しては「府大にはリポジトリがあってよかった」という声が聞こえてきた。学位論文、紀要、部局発行広報誌、研究会、講演会の報告書等、OPERAへの掲載がルーティン化されているものも多くあり、OPERAの存在は学内教職員にも定着してきたように思われるが、リポジトリの目的「本学の学術研究の発展に資するとともに、学術研究の成果を還元し、もって社会に貢献するため、本学の教育研究活動において生み出された成果を収集して恒久的に保存・蓄積し、学内外に発信・提供する」（大阪府立大学学術情報リポジトリ運用指針）に立ち返るならば、今後取り組むべき課題は登録コンテンツを充実することに尽きる。

4(1)でも述べたが、学位論文のリポジトリ登録状況は十分ではなかったため、2020年4月に「学位論文の公表に関する取扱要領」（教育推進課）が改正され、各研究科においても学位論文のOPERAでの公表が促進されることとなった。オープンアクセス方針を実質化し学術雑誌論文の登録件数を増やすためには、研究推進課等とも協力し、同方針の内容はもちろんのこと、オープンアクセスの世界的な動向やその意義⁵⁾などを周知するとともに、教員が論文を登録する際の著作権確認などのサポートが必要である。また、大学統合を控えてこれまでの大学の活動を記録、保存するために、学内機関、事務部署等で発行している年報、報告書、広報物等を電子化し、OPERAのもつ電子資料のアーカイブ機能を活用するよう、登録を拡大していくことは重要である。今後ますます加速化するであろう教育研究成果のオープン化に対応すべく、教員はじめ学内関係部署と連携し、今後もその充実に努めなければならない。

【参考文献】

- 「大阪府立大学学術情報リポジトリ（OPERA）について」『学術情報センター年報 情報』15号2009 p 3～6
https://opera.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=7321&item_no=1&page_id=13&block_id=21
(URLは2020年8月3日確認。以下同じ)
- 国立情報学研究所「学術コミュニケーションの新たな地平：学術機関リポジトリ構築連携支援事業第1期報告書」平成20年12月
https://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi_ir_h17-19_report.pdf
- 国立国会図書館「学位論文（博士）のデジタル化実施に係る著作権処理について」
<https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/theses.html>
- 国立国会図書館「学位論文（博士）のデジタル化実施に係る著作権処理について」平成22年9月17日 記者発表資料
https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9229727/www.ndl.go.jp/jp/news/fy2010/_icsFiles/afieldfile/2010/09/16/pr20100917.pdf
- 文部科学省「学位規則の一部を改正する省令の施行について」平成25年3月
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakuin/detail/1331790.htm
- 「学位規則の一部を改正する省令」平成25年文部科学省令第5号
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/03/13/1331809_01.pdf
- 萩原弘子「オープンアクセス方針の策定と実施について—報告と省察」『RI:Research Integrity Reports』2, 2017.03 p.39-57
https://opera.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=7026&item_no=1&page_id=13&block_id=21

【注】

5) 学術雑誌論文オープンアクセス化の推進、オープンアクセスジャーナルの増加、拡大により、電子ジャーナルの契約形態などが大きく変化してきている。

尾城孝一「学術雑誌の転換契約をめぐる動向」『カレントアウェアネス』No.344 2020.6

https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11509687_po_ca1977.pdf?contentNo=1&alternativeNo=

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）「購読モデルからOA出版モデルへの転換をめざして～ JUSTICEのOA2020ロードマップ～」2019年3月

https://www.nii.ac.jp/content/justice/overview/JUSTICE_OA2020roadmap-JP.pdf

■ リポジトリシステムのリニューアル (DSpaceからJAIRO Cloudへの移行)

1 はじめに

大阪府立大学学術情報リポジトリ（愛称OPERA：Osaka Prefecture University Education and Research Archives）は大阪府立大学で生産された教育研究成果等を電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて学内外へ発信することを目的に2009年4月に公開され、10年にわたりコンテンツの充実に努めてきた。主なコンテンツの種類は博士論文、紀要、学内刊行物である。学内刊行物で、現時点で登録されている資料は下の表のようになっている。OPERAは発足以来DSpaceという機関リポジトリ用システムで運用してきたが、2019年9月に国立情報学研究所（NII）が提供するJAIRO Cloudに移行した。

<参考>コンテンツ種類別登録数

(2019年3月末)

学位論文	503
紀要論文	8,923
学術雑誌論文	181
会議発表論文	0
研究報告書	15
図書	52
学術雑誌記事	0
学会発表資料	15
一般雑誌記事	74
講義資料	107
学内刊行物	1,084
その他	192
合計	11,146

2 リポジトリシステム移行の経緯

旧システムで使用していたDSpaceは、BSDライセンスで提供されているオープンソースのソフトウェアで、デジタル資産を管理するツールである。日本では2007年頃からリポジトリを構築しているほとんどの機関で使われてきたが、2013年頃からDSpaceからJAIRO Cloudへ移行する機関が徐々に増え、2017年3月にはJAIRO Cloudを使用する機関がリポジトリ構築機関の50%を超えた。またNIIがDSpaceからJAIRO Cloudへ移行する機関を対象に説明会を行うなど支援を行ったため、本学でもJAIRO Cloudへの移行を検討するようになった。

3 新システムJAIRO Cloud

JAIRO Cloudは前述の通りNIIが提供し、2012年度（平成24年度）より運用を開始したクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービスである。2020年3月末現在609の機関で導入されている。特徴としては、フォーラムやFAQが充実しており、参加機関コミュニティによる相互協力が活発に行われていること、クラウド型のシステムで、随時メンテナンスが行われているため、より強固なセキュリティが期待されることに加え、Googleから検索されやすくなり、閲覧数ダウンロード数の増加が期待できるということが挙げられている。

4 DOIの付与

新システムでは、オープンアクセス促進のため、旧システムで登録したコンテンツも含め博士論文および紀要論文に対して従来のCNRIハンドル*に加えてJaLC DOI**を付与することになった。

* CNRI ハンドル：インターネット上に存在するコンテンツを永続的に特定するための識別子。米国のCNRI(Corporation for National Research Initiatives) が運営している。

(例 <http://hdl.handle.net/10466/12345>)

** JaLC DOI：Digital Object Identifierの頭文字で、コンテンツを永続的に特定するための識別子。日本ではJapan Link Center (JaLC) が登録機関となっている。

(例 <http://doi.org/10.24729/123456789>)

5 システム移行の実施

2019年4月から以下のスケジュールで移行作業を行った。4月1日から7月15日まで事前準備に十分な作業時間を確保できたため、トラブルなく移行できた。

日程	作業内容
4月1日~4月10日	エラー確認
4月10日~4月30日	インデックス、メタデータ構成
4月10日~7月15日	メタデータ修正（コンテンツタイプ修正を含む）
7月16日~9月9日	新規登録凍結
8月29日~9月9日	既存コンテンツをJAIRO Cloudへ登録、確認
9月10日~	旧OPERAへのリンクはJAIRO Cloudへリダイレクト 新規コンテンツをJAIRO Cloudへ登録開始

6 学内検討及び周知

システム移行の進捗に合わせ、トップページのレイアウトなどを課内のワーキンググループで検討した。2019年9月10日付でポータル及び図書館ニュースでJAIRO Cloudへの移行が完了したことを周知した。

お願い

図書館では、対象となる資料のOPERAへの登録を随時受け付けております。論文だけでなく、発行を停止した学内刊行物など、将来閲覧できなくなる恐れがあるものについてもリポジトリへの登録をご検討いただけないでしょうか。紙ベースの資料の電子化など、お手伝いできることがあるかもしれません。

ぜひ一度、学術情報リポジトリ担当へお問い合わせください。

メールアドレス：repo@ao.osakafu-u.ac.jp

電話番号：072-254-9159

■ 大阪府立大学・大阪市立大学 図書館公開シンポジウム

公開シンポジウム

『オープンアクセス—これまでとこれから』開催報告

大阪府立大学学術情報リポジトリOPERAは、2019年に、正式公開（2009年4月）から10年という節目を迎えた。また、同年これまでのシステムであるDSpaceから国立情報学研究所の共用システムであるJAIRO Cloudに移行した。これを記念して、大阪市立大学学術情報総合センターとの共同企画として公開シンポジウムを開催した。

- 日 時：2019年12月17日（火） 13：30－16：00
- 会 場：大阪府立大学学術交流会館多目的ホール
- 主 催：大阪府立大学学術情報センター図書館
大阪市立大学学術情報総合センター
- 共 催：大阪府立大学研究推進課、大阪市立大学研究推進課
- 参加者：54名 大阪府立大学及び大阪市立大学の学生、教職員、他大学図書館関係者

◇開会挨拶

石井 実 大阪府立大学学長顧問

◇第1部

●両大学のリポジトリ紹介

「大阪府立大学学術情報リポジトリOPERAの10年」
大阪府立大学 学術情報課（次ページ以降に発表資料）
「大阪市立大学学術機関リポジトリOCURA」
大阪市立大学 学術情報課

●基調講演

「研究成果のオープン化から始まる研究戦略」
引原 隆士氏 京都大学図書館機構長・附属図書館長

要 旨

図書館、研究者及び出版の状況について、これまでの経緯から解説したうえで、研究のオープン化が商業主義出版社から学術情報を研究者の手に取り戻すためのベースであること、オープンアクセス戦略が「研究者を評価する」ためではなく「研究者を守る」ために必要であり、そのためには、今後FAIR原則のもとにインフラを整備し、研究のライフサイクルの各課題に対応してオープン化を進めていくことが必要である。



◇第2部

●話題提供

「機関リポジトリはどのように使われているのか」

佐藤 翔氏 同志社大学免許資格課程センター准教授

概 要

機関リポジトリへのアクセスログや他のデータベースとの比較、研究者への質問紙調査等から、機関リポジトリの利用状況について話題提供があった。

- ・ 検索エンジン経由でのアクセスが多い。
- ・ 研究者のみならず研究者以外の個人利用者のアクセスも多い。
- ・ 紀要論文、分野別では、人文社会科学系の全文利用率が高い。
- ・ リンク状況を分析すると、学術的なサイトより非学術的なサイトへのリンクが若干多く、個人的な趣味や関心に活用されていることがわかる。



●パネル討論

「研究者にとってのオープンアクセス」

司 会：沼倉 宏 大阪府立大学学術情報センター図書館長

パネリスト：

引原 隆士 基調講演 講師

佐藤 翔 話題提供者

杉本 憲治 大阪府立大学 生命環境科学研究科教授

村上 晴美 大阪市立大学 工学研究科教授

学術情報総合センター副所長

概 要

会場からの基調講演および話題提供に対する質問等をもとに、パネルディスカッションを行った。会場からは、「オープンアクセス、リポジトリがどのように社会で役立っているのか実感が無いが。」という質問には、現状は過渡期であり、今後どのように動いていくのか、例えば「査読」などについても、オープン査読などこれまでにない形が出てきており、その方向性を注目する必要がある、というパネリストからの発言があった。



◇閉会挨拶

櫻木 弘之 大阪市立大学 副学長

※本シンポジウムの講演資料等は大阪府立大学学術情報リポジトリで公開している。



大阪府立大学学術情報リポジトリ OPERAの10年

大阪府立大学 学術情報課

目次

1. OPERA ができるまで(2007年度～2008年度)
2. OPERA 公開(2009年度～)
3. オープンアクセス方針(2017年度～)
4. Dspace から JAIRO Cloud へ(2019年度)
5. OPERA の10年
6. OPERA のこれから

1. OPERA ができるまで(2007年度～2008年度)

CSI委託事業	
2008年4月	「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 学術機関リポジトリ構築連携支援事業 平成20-21年度委託事業(領域1)」応募
2008年7月	同事業採択決定
2009年3月	同事業終了 平成21年度委託事業(領域1)申請
2009年6月	同平成21年度委託事業採択決定

1. OPERA ができるまで(2007年度～2008年度)

学内体制	
2008年6月	機関リポジトリワーキンググループ立ち上げ 座長 前川寛和教授(理学) 教員4名、学術情報課職員4名 6月から8月まで3回開催
2008年11月	大阪府立大学学術情報リポジトリ運営委員会発足 図書館委員会の諮問組織 各部局から1名委員を選出
2008年10月	学術情報リポジトリチーム発足

1. OPERA ができるまで(2007年度～2008年度)

学内広報等	
2008年12月	講演会「機関リポジトリの目指すもの」 筑波大学 逸村裕教授
2008年12月 ～2009年1月	名称・愛称募集 愛称決定「OPERA」
2009年1月～	各部局説明会の実施

1. OPERA ができるまで(2007年度～2008年度)

事務作業	
2008年12月	リポジトリシステム入札 Dspace
2009年2月	CiNii掲載論文のリポジトリへの掲載許諾
2009年2月	試験公開

2. OPERA 公開【1】(2009年度～)

2009年4月	正式公開
2009年4月	「大阪府立大学学術情報リポジトリ運用指針」施行
2009年10月	講演会 「機関リポジトリの活用と学術コミュニケーション」 東北学院大学 佐藤義則教授
2010年3月	「大阪府立大学学術情報リポジトリと大阪公立大学 共同出版会との連携に関する合意書」締結

2. OPERA 公開【2】(2009年度～)

2010年6月	登録5千件記念インタビュー 人間社会学部 大形徹教授
2013年4月	学位論文のWeb公開 「学位論文の公表に関する取扱要領」施行
2015年4月	教員活動情報データベースとのリンク
2016年5月	登録1万件記念インタビュー 理学系研究科 松原浩教授

3. オープンアクセス方針(2017年度~)

2017年4月	<p>「公立大学法人大阪府立大学 オープンアクセス方針」 施行</p> <p>公開の責務: 所属教職員による学術研究成果を無償公開 ※適用除外にあたる場合は申請が必要</p> <p>公開の方法:OPERA その他著者が選択する方法</p>
---------	--

9

4. DspaceからJAIRO Cloudへ(2019年度)

2019年7月 ~9月	<p>DspaceからJAIRO Cloud※へシステム移行</p> <p>※国立情報学研究所(NII)が提供する共用サービス 参加機関コミュニティ(627機関)</p>
2019年9月	JAIRO Cloudでの運用開始

10

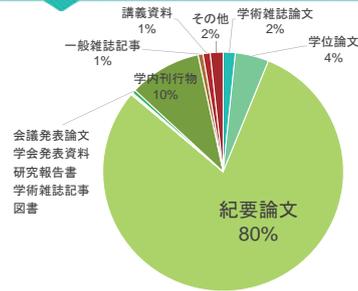


5. OPERAの10年(アクセス数・登録数の遷移)



12

5. OPERAの10年(登録コンテンツタイプの割合)



(2018年度時点) 13

5. OPERAの10年(ランキングTOP20)

順位	論文名	種別	DL数
1	有機化学学生実験における一考察(2)	紀要論文	4,904
2	身体能力における性差再考: スポーツパフォーマンスを中心に	その他	2,811
3	認知症の原因疾患による症状行動の特徴とケアの方針	紀要論文	2,783
4	その言動はセクハラです! : 男性はなぜ気づかないのか	その他	2,313
5	出生前診断・選択的中絶をめぐるダブルスタンダードと胎児情報へのアクセス権: 市民団体の主張から	紀要論文	1,952
6	新生児集中治療室(NICU)に入院した子どもをもつ母親の思いに関するメタ統合	紀要論文	1,880
7	認知症高齢者をケアする看護師の感情	紀要論文	1,861
8	朝食欠食習慣を持つ大学生のための教育に関する研究	紀要論文	1,779
9	女性と経済: フェミニスト経済学のあゆみ	その他	1,771
10	PWMインバータ駆動ブラシレスDCモータのベアリング電食に関する研究	学位論文	1,650

(2018年度調べ) 14

5. OPERAの10年(ランキングTOP20)

順位	論文名	種別	DL数
11	回転子位置センサレス駆動される永久磁石同期モータの高性能制御	学位論文	1,490
12	「生まれてくることが望ましいのか: デイヴィッド・ベネターの『生まれてこなければよかった』について	一般雑誌記事	1,336
13	異性装研究: 近代フランスにおける服飾の社会表象(第4回講演)	その他	1,276
13	看護職の職務満足質問紙の研究: Stampsらの質問紙の日本での応用	紀要論文	1,276
15	「草食系男子」の現象学的考察	一般雑誌記事	1,252
16	「看護人間学」の構想と基盤原理の探究: F.ナイテンゲール看護論を再考して	学位論文	1,233
17	理科実習教育に適した道筋アミノ酸の定量分析法について	紀要論文	1,231
18	こぼで装うジェンダー(第2回講演)	その他	1,227
19	療養者とその家族の退院に関連する療養生活への不安	紀要論文	1,224
20	回復期にある人工関節全置換術後患者の疼痛の実態	紀要論文	1,223

(2018年度調べ) 15

6. OPERAのこれから

今後の課題

- ・学術雑誌論文の登録件数を増やす!
 - ⇒オープンアクセス方針と適用除外を周知
 - ⇒著作権確認など、教員が著者最終稿を登録するためのサポート
- ・学術情報にとどまらず、大学が発信する情報を保存する装置としての機能

16

■ 学生対象図書館アンケート集計結果報告

図書館等利用実態及び学生のニーズを把握し図書館サービスの充実、改善の参考とするためアンケートを実施した。以下その結果について報告する。

1 調査の概要

(1) 調査対象

大阪府立大学の学生（学域・学部、大学院）

(2) 調査期間

2019年10月1日(火)～10月31日(木)

(3) 調査方法

ウェブポータル上のアンケートフォームで実施

(4) 回答数

619

2 集計結果

資料1のとおり

3 分析

(1) 回答者の属性

回答者数は、学域生、院生それぞれ全体の8%であった。学年別では学域1年生が、所属別では工学域が最も多かった。所属別の回答率は1%から12%とばらつきがあった。

(2) 図書館サービスの認知度

図書館が実施しているサービスのうち知っているものについて「学生選書委員による図書の選定」、「図書リクエストの受付」が上位であったが、「オンデマンド講習会」や「レポート・論文執筆時の文献検索法」なども、回答者の約40%が認知していることがわかった。今回のアンケートではこれらサービスの利用調査は行っていないが、認知度と利用頻度の相関関係についても調査し、今後どのようなサービスを実施するか検討する必要がある。

(3-1) 図書館利用頻度

回答者の約3分の1が「週に1～2回」図書館を利用しており「週に3～4回」、「ほぼ毎日」を合わせると半数以上が週に1回以上は利用している。しかし「年に数回」、「試験前のみ」などほとんど利用しない学生が約20%存在する。近年、資料の電子化などに伴い来館者数は年々減少しているが、学生のニーズに合わせたサービスの提供、非来館型サービスの充実なども含めて、今後のサービス提供内容を検討する必要がある。

(3-2) 利用している図書館・図書室（複数回答可）

回答者の93%が総合図書館中百舌鳥を利用しているが、次に利用が多いのは経済・経営・法律系図書室であった。同図書室の所蔵資料は専門分野に特化しているうえ図書貸出件数も多くないが、授業教室が多いB3棟という立地から、自主学習スペースとしての利用が多いと推測できる。

(3-3, 3-4) 図書館利用目的

図書館の利用目的では「自主学習のため」の回答が最も多いが、「図書や雑誌等を利用するため」もほぼ同数の約70%の回答であった。学年別の比率をみると学域低学年での「自主学習」利用が多く、大学院生は「図書や雑誌等の利用」の割合が高い。図書館内のパソコン、貸出パソコンは、学年を問わず利用目的として回答されている。その他の目的としては「グループ研究室の利用」

という回答があった。

(3-5～3-7) 図書館・図書室所蔵図書

利用したい図書を図書館で所蔵しているかについての回答は「ある程度そろっている」、「ほぼそろっている」を合わせると約90%にのぼるが、後述する質問7「図書館への要望」では「蔵書の充実」が多くあがっている。

増やしてほしい図書の分野は「自然科学」、「工学」、「文学」の順で、本学の教育研究分野に対応した要望が多い。あまりそろっていない図書、増やしてほしい図書としては小説がトップにあがっているが、本学資料収集方針により、学生選書委員による選書を例外として小説類は原則収集していない。学生の要望も取り入れつつ、教育、研究支援のための資料を収集するという図書館資料収集方針を学生にも周知し、理解を求めらなければならない。

(4-1～4-5) 電子資料（データベース、電子ジャーナル、電子書籍）

図書館・図書室に増やしてほしい資料は冊子が電子かという設問については「冊子」、「どちらかといえば冊子」を合わせると60%の学生が電子より冊子を希望しているが、「どちらでも良い」、「わからない」という回答が20%あり、電子書籍についての理解が浸透していないと思われる。

データベースや電子ジャーナルの利用については「あまり利用しない」、「利用しない」を合わせて53%、「よく利用する」、「ある程度利用する」が29%、「どのようなものかわからない」という回答が18%であった。「よく利用する」、「ある程度利用する」と回答したのは4年生以上、大学院生の割合が高く、「どのようなものかわからない」の回答は学域低学年に多い。またデータベースや電子ジャーナルの利用方法についても「あまり知らない」、「知らない」の回答は学域低学年に多い。

電子ブックの利用、利用方法については、学年に関わらず「利用しない」、「知らない」の回答が多かった。

回答結果からは、電子資料全般への理解が得られていないことがうかがえるため、有効に活用してもらうよう、本学で利用できる電子資料の内容や利用方法などの周知を図りたい。

(5-1～5-12) 自主学習、ラーニングコモンズ

学内で自習する場所としては「図書館・図書室」の回答数が468と最も多く、2位の「ラーニングコモンズ」は221とその半数であった。「その他」としては、研究室、部室、院生室などの回答があり、4年生以上、大学院生は研究室の回答が多かった。

ラーニングコモンズの利用頻度については、図書館の利用頻度と同じく「週に1～2回」、「月に1～2回」が多い。

コモンズTAについては、65%以上が「知っている」と回答しているが、学習相談をしたことがあるという回答は10%に満たない。しかし「ラーニングコモンズ内で、サポートしてほしいと思う学習支援」として、全回答者の約半数が、学年を問わず、「レポート・論文の書き方」を希望しており、そのニーズにどのような形で対応するのがよいか検討する必要がある。

ラーニングコモンズの良い点、改善してほしい点についての自由記述回答では、良い点として「友人と相談しながら学習できる」、「明るい、開放的」、「グループ発表や会議ができる」などの意見が上がっている。改善してほしい点としては「うるさい、騒がしい」という回答が多く、利用マナーに関する意見も多い。良い点としてあげられている友人との会話やグループ討議などが、改善

してほしい点の「騒がしい」と表裏一体になってしまっているというのが現状である。良い点を活かしつつ、他の利用者への配慮などバランスの取れた利用マナーを呼びかけるなどの対策が必要だと思われる。

(6-1～6-7) 図書館開催イベント講習会

図書館で開催されたイベントや企画、講習会には約80%の人が参加したことがないという回答であった。しかしイベントに関心がないわけではなく、今後実施してほしい企画としては、講演会やトークイベント、おすすめ本の紹介等多様な意見が上がっている。これらを参考にイベントの内容、開催時期等を検討して取り組みたい。

(7) 図書館・図書室への要望

自由記述の要望については、意見の多かった順に大きく「収集資料」、「図書館の施設、環境」、「図書館サービス」、「利用ルール、マナー」に分類した。

「収集資料」では「教科書・参考書等を増やしてほしい」という要望が多く、配架場所、選書、視聴覚資料、電子ジャーナルデータベースへの要望もあがっている。TOEIC等の語学参考書等の最新版への更新という要望については、これまでも毎年見直しを行い整備しているが、学生の利用も多いため、不十分な点がないか一層注意を払いたい。一般図書、特に小説類への要望については、前述したとおり本学図書館の収集方針を周知し理解を求めたい。

「図書館の施設、環境」では座席の増設や椅子、コンセント等への要望などがある。館内パソコン、貸出パソコン等への要望も多いが、担当部署に今後の方針を確認する必要がある。

「図書館サービス」では開館時間の延長、土日開館の要望が多いが、近年図書館の利用者数は平日、土日のいずれも減少している。図書館の利用目的とも合わせて、詳細なニーズ調査が必要と思われる。ウェブサイト等への要望にある「利用状況のウェブ確認」、「新着図書のメール配信」等、図書館利用の利便性向上のために対応が可能か検討したい。MyLibrary等のスマートフォン対応はすでに実施済である。

「利用マナー、ルール」では、館内での飲み物への要望が多いので今後検討していきたい。

4 まとめ

全国的に大学図書館の利用者数、図書貸出数は年々減少の一途をたどっている。しかし今回実施したアンケートの結果では、学生の図書館へのニーズは高いことがわかる。自主学習の場としてラーニングコモンズを設置したことにより、図書館入館者数は減少し、電子資料の普及により、図書の貸出数は減少しているとも考えられる。これらのことも踏まえて、学生の教育研究支援のためのスペースと資料をいかに提供するか、学内他部署とも連携しながら、今後の図書館サービスを検討していきたい。

あらためて、アンケートにご協力いただいた学生みなさんに謝意を表す。

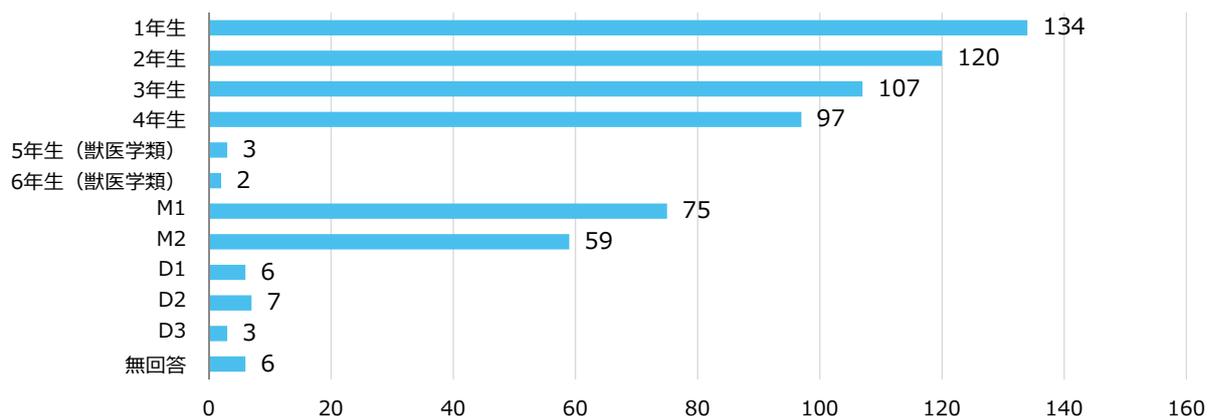
資料1 学生対象図書館アンケート集計結果

(参考) 学生数

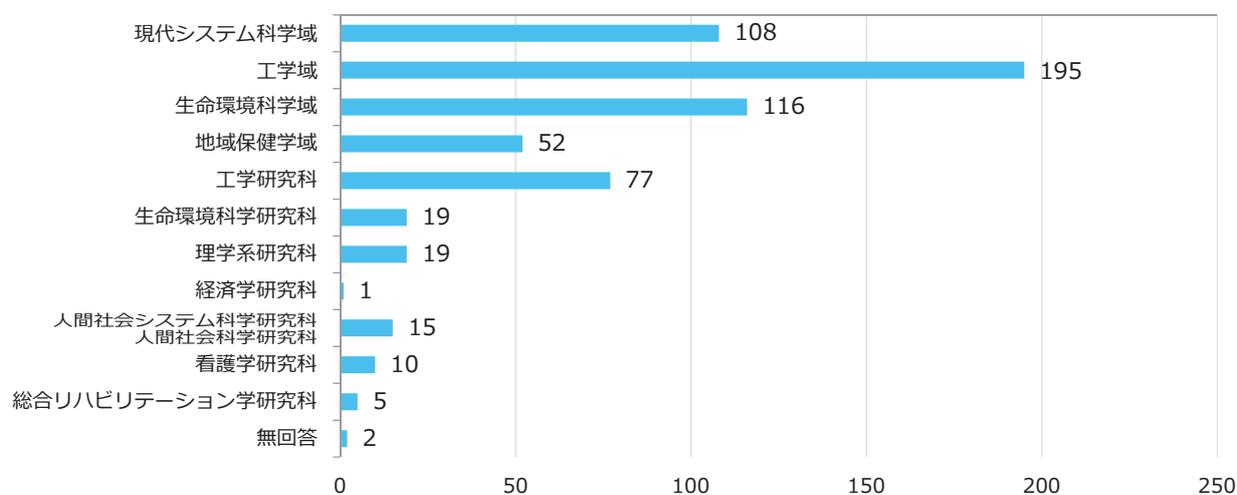
(2019年11月現在)

	学生数	回答数	回答率	
学域	現代システム科学域	1,346	108	8%
	工学域	1,994	195	10%
	生命環境科学域	1,455	116	8%
	地域保健学域	1,084	52	5%
	計	5,879	471	8%
研究科	工学研究科	853	77	9%
	生命環境科学研究科	295	19	6%
	理学系研究科	213	19	9%
	経済学研究科	103	1	1%
	人間社会システム科学研究科 人間社会科学研究科	213	15	7%
	看護学研究科	83	10	12%
	総合リハビリテーション学研究科	79	5	6%
	計	1,839	146	8%
	無回答		2	
合計	7,721	619	8%	

1-1. 学年

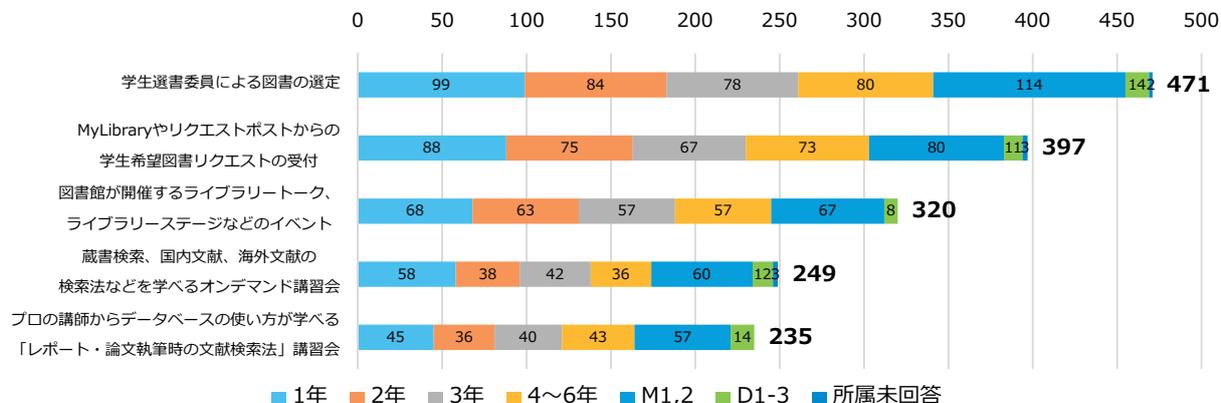


1-2. 所属



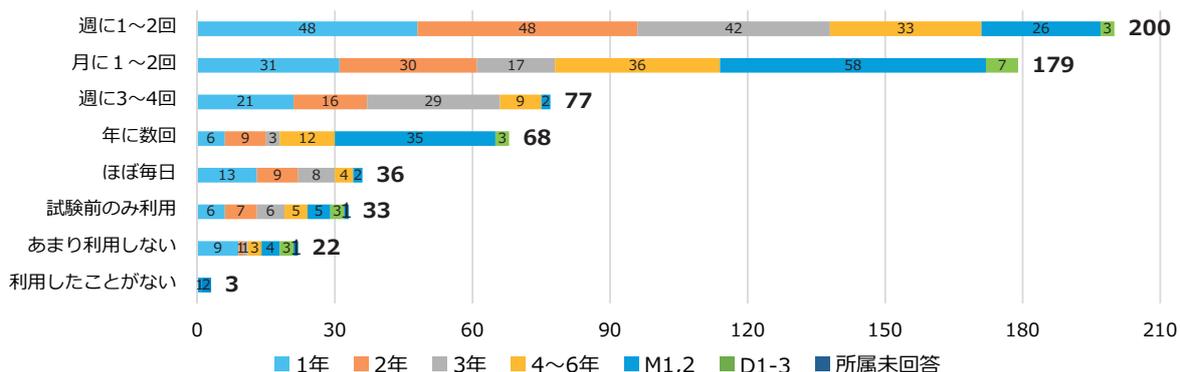
2-1. 図書館が行っている以下のサービスで、知っているものにチェックを入れてください。(複数選択可)

- MyLibraryやリクエストポストからの学生希望図書リクエストの受付
- 学生選書委員による図書の選定
- 蔵書検索、国内文献、海外文献の検索法などを学べるオンデマンド講習会
- プロの講師からデータベースの使い方が学べる「レポート・論文執筆時の文献検索法」講習会
- 図書館が開催するライブラリートーク、ライブラリーステージなどのイベント



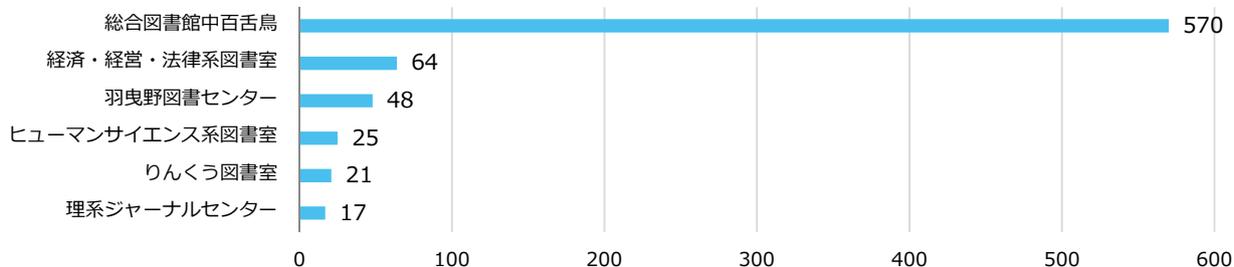
3-1. 図書館・図書室をどのくらいの頻度で利用していますか。

- ほぼ毎日
- 週に3~4回
- 週に1~2回
- 月に1~2回
- 年に数回
- 試験前のみ利用
- あまり利用しない
- 利用したことがない (「利用したことがない」と回答した人は、質問3-7へ)



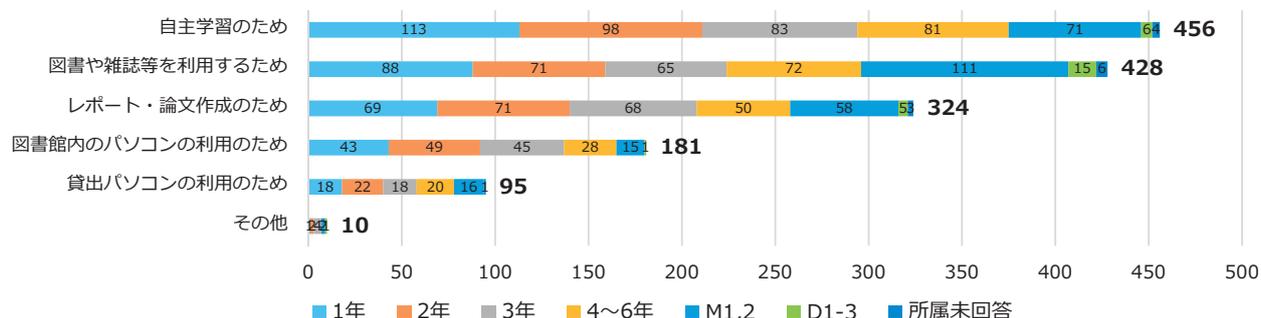
3-2. 普段利用している図書館・図書室 (複数回答可)

- 総合図書館中百舌鳥
- 理系ジャーナルセンター
- 経済・経営・法律系図書室
- ヒューマンサイエンス系図書室
- 羽曳野図書センター
- りんくう図書室



3-3. 普段、図書館・図書室をどういった目的で利用していますか。(複数回答可)

- 図書や雑誌等を利用するため
 自主学習のため
 レポート・論文作成のため
 図書館内のパソコンの利用のため
 貸出パソコンの利用のため
 その他



3-4. 3-3で「その他」を選んだ方は記入してください。

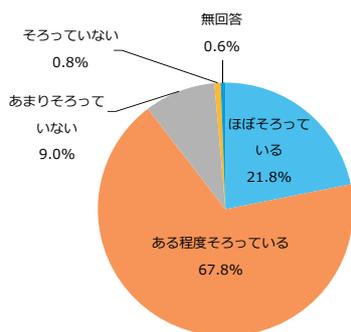
グループワーク、グループ研究室利用	3
データベース利用	1
新聞の閲覧	1
レポートの印刷	1
研究	1

3-6. 3-5で「あまりそろっていない」「そろっていない」を選んだ方は具体的に図書の内容を記入してください。

小説	15
新しい図書、参考書	5
TOEIC、ロシア語、外国語	5
参考書、教科書	5
獣医、医学、看護系	5
趣味、教養、音楽、スポーツ	4
情報系、ソフト	2
生物系	2
物理学、原子力	2
人文系	2
その他(漫画、エッセイ、デザイン等)	8

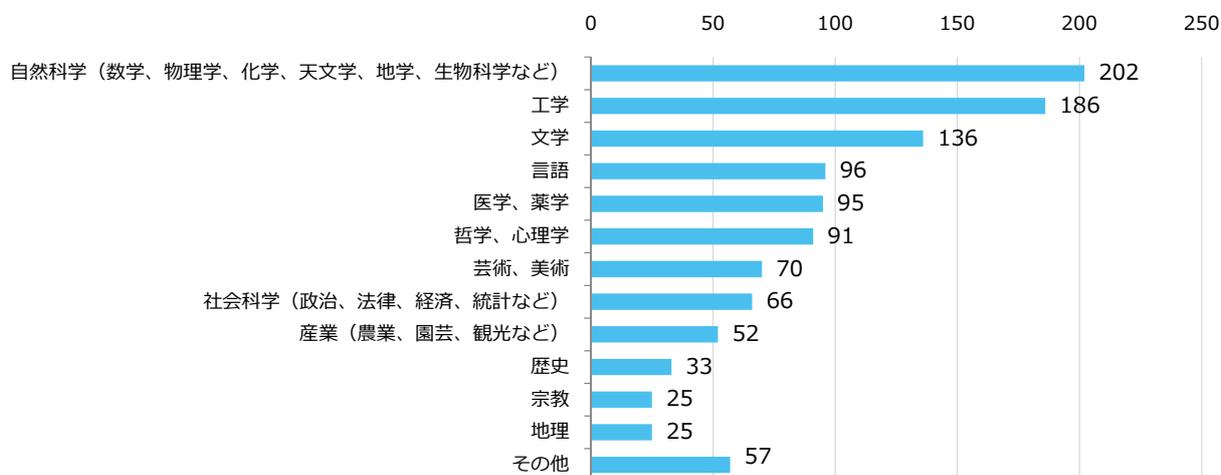
3-5. 図書館・図書室には利用したいと思う図書がそろっていますか。

- ほぼそろっている
 ある程度そろっている
 あまりそろっていない
 そろっていない



3-7. 図書館・図書室に増やしてほしい図書の分野を選んでください。(複数選択可)

- 哲学、心理学
 宗教
 歴史
 地理
 社会科学(政治、法律、経済、統計など)
 自然科学(数学、物理学、化学、天文学、地学、生物科学など)
 医学、薬学
 工学
 産業(農業、園芸、観光など)
 芸術、美術
 言語
 文学
 その他



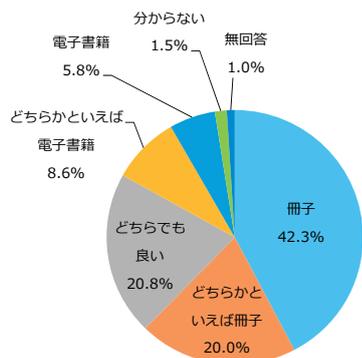
3-8. 3-7で「その他」を選んだ方は記入してください。

小説	7
スポーツ関係	6
教育計	5
プログラミング、情報系	5
ビジネス、就活	4
福祉系	3

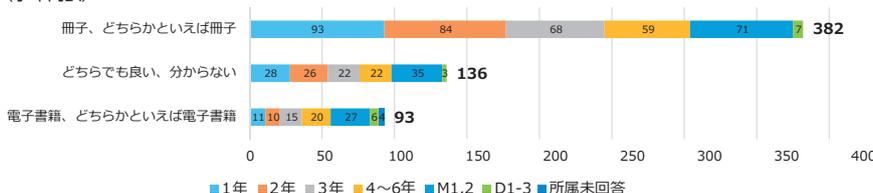
看護、リハビリ	3
食品・栄養	2
趣味	2
獣医	2
その他（漫画、デザイン等）	8

4-1. 図書館・図書室に増やしてほしい資料として、冊子と電子書籍、どちらの充実を希望しますか。

○冊子 ○どちらかといえば冊子 ○どちらでも良い ○どちらかといえば電子書籍 ○電子書籍 ○分からない



(学年内訳)

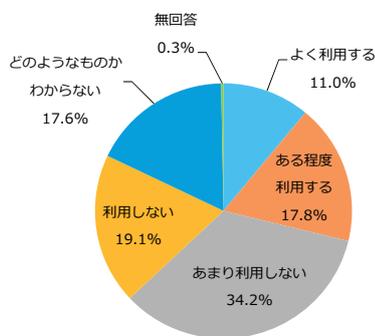


4-2. 普段、データベースや電子ジャーナルを利用していますか。

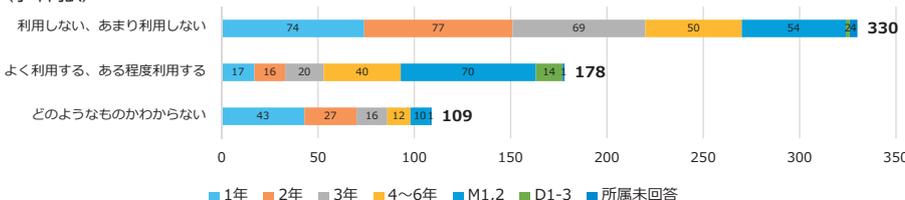
(参考) データベース <http://www.osakafu-u.ac.jp/library/info/db/>

(参考) 電子ジャーナル http://www.osakafu-u.ac.jp/library/info/ej_book/

○よく利用する ○ある程度利用する ○あまり利用しない ○利用しない ○どのようなものかわからない

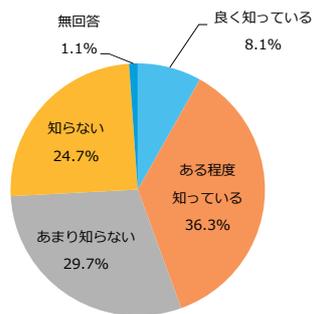


(学年内訳)

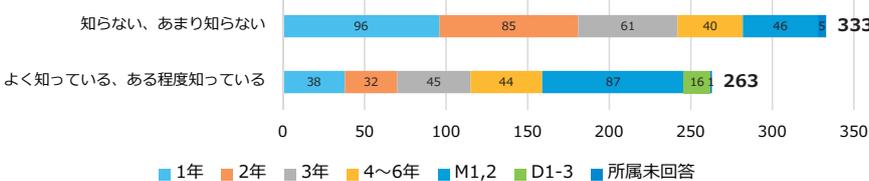


4-3. データベースや電子ジャーナルの利用方法を知っていますか。

○よく知っている ○ある程度知っている ○あまり知らない ○知らない



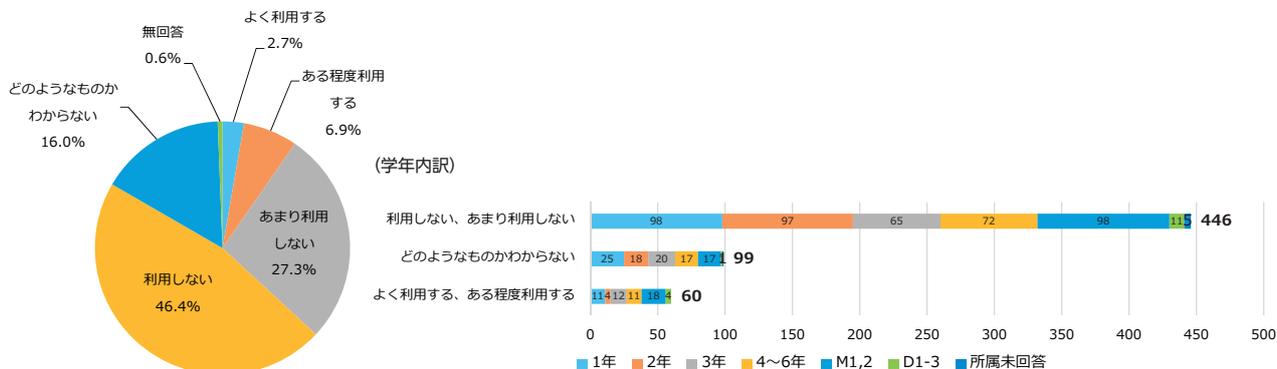
(学年内訳)



4-4. 普段、電子ブックを利用していますか。

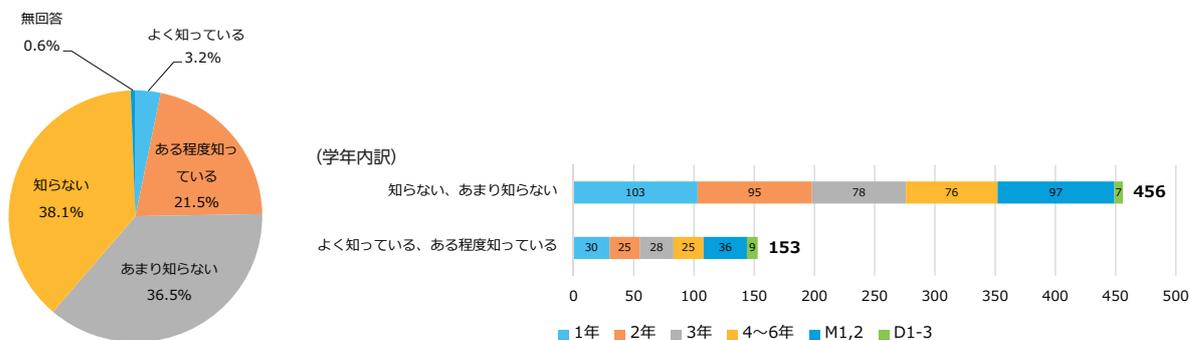
(参考) 電子ブック http://www.osakafu-u.ac.jp/library/info/ej_book/

○よく利用する ○ある程度利用する ○あまり利用しない ○利用しない ○どのようなものかわからない



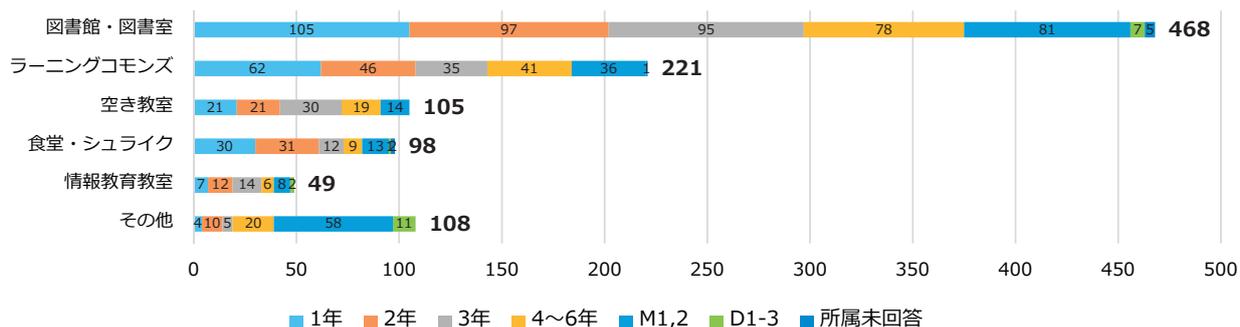
4-5. 電子ブックの利用方法を知っていますか。

○よく知っている ○ある程度知っている ○あまり知らない ○知らない

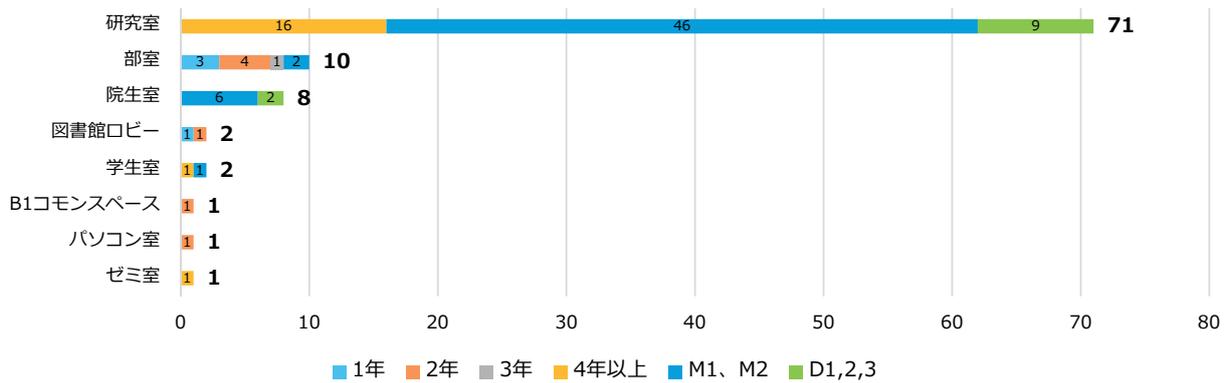


5-1. 普段、学内でよく自主学習する場所を選んでください。(複数回答可)

図書館・図書室 ラーニングcommons 食堂・シュライク 情報教育教室 空き教室 その他



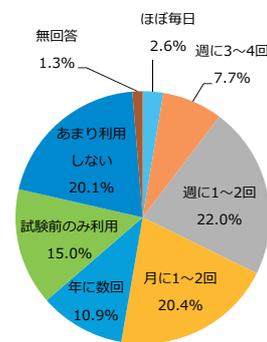
5-2. 5-1 でその他を選んだ方は記入してください



5-3. 5-1 でラーニングcommonsを選んだ方に質問です。

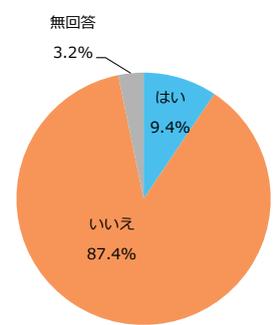
ラーニングcommonsをどのくらいの頻度で利用していますか。

- ほぼ毎日
- 週に3～4回
- 週に1～2回
- 月に1～2回
- 年に数回
- 試験前のみ利用
- あまり利用しない



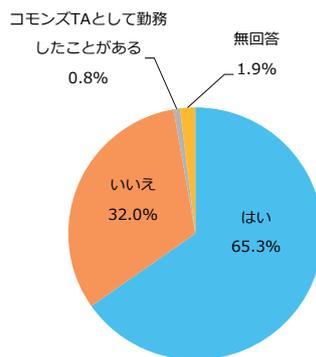
5-5. 5-4 で「はい」を選択された方は、「commonsTA」に学習相談をしたことがありますか。

- はい
- いいえ



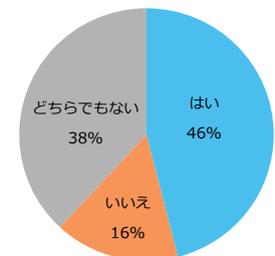
5-4. 中舌鳥キャンパスB2棟ラーニングcommonsで学習支援を行っている大学院生スタッフ「commonsTA」をご存じですか。

- はい
- いいえ
- commonsTAとして勤務したことがある (5-10.へ)



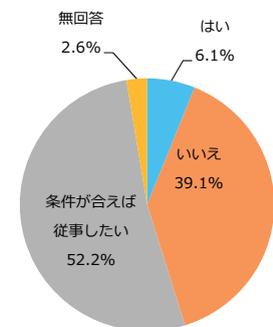
5-6. 5-5 で「はい」を選択された方は、自身の学習のために役立ちましたか。

- はい
- いいえ
- どちらでもない



5-7. 自身もcommonsTAのような学生スタッフとして従事したいと思いませんか。

- はい
- いいえ
- 条件が合えば従事したい



5-8. 5-7で「はい」「条件が合えば従事したい」を選んだ方は、どのような条件であれば従事したいですか。(複数回答可)

好きな時間に従事できる 報酬がある 自身の能力を生かせる その他

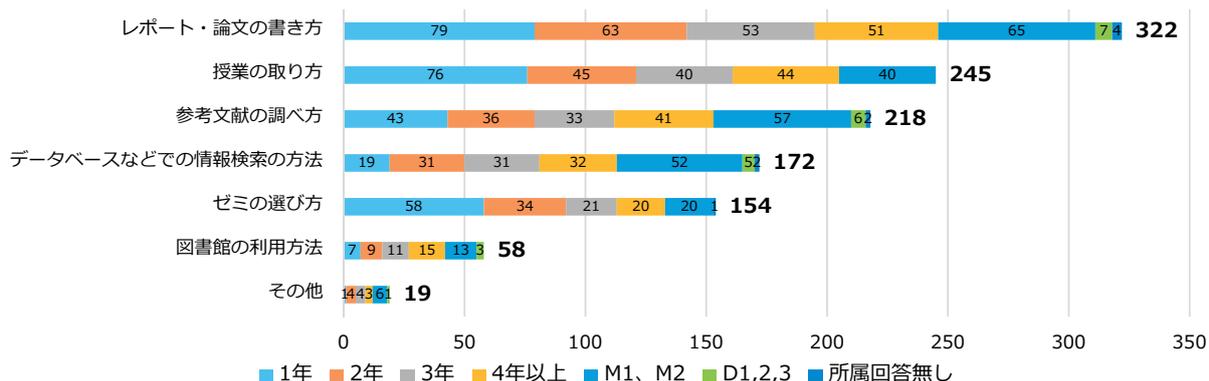


5-9. 5-8で「その他」を選んだ方は記入してください。

従事しやすいキャンパス、羽曳野キャンパス	2
研究との両立	1
学生の利用頻度が高い	1
時間を有効に使える	1
充実感が得られる環境	1

5-10. 図書館・ラーニングコモンズ内で、サポートしてほしいと思う学習支援を選択してください。(複数回答可)

レポート・論文の書き方 授業の取り方 ゼミの選び方 参考文献の調べ方
データベースなどでの情報検索の方法 図書館の利用方法 その他



5-11. 5-10で「その他」を選んだ方は記入してください。

勉強法、論文作成等のサポート	5
PC、無線LANの接続方法等	3
Excelの使い方など	2
学域、学類の先輩のアドバイス	1

5-12. ラーニングコモンズについて、良い点、改善してほしい点があれば教えてください。

良い点

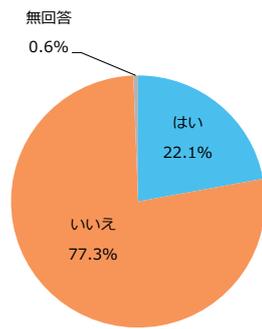
友人と相談しながら学習できる	9
雰囲気がよい。明るい、開放的、自由	7
グループ発表や会議ができる	6
机や椅子を自由に動かせる	5
スペースが広く座席も多い	5
コンセントが使える、充電できる	2
予約制可能なスペースがある	1
利用時間が比較的長い	1

改善してほしい点

うるさい、騒がしい	32
スペースを広げてほしい、静かなエリア、個人スペースがほしい。	15
施設設備の充実。プロジェクタ、プリンタ、ゴミ箱等	15
利用マナーが悪い	12
席数を増やしてほしい	12
飲食できるスペースを作してほしい	9
開室時間の延長など	8
空調調節、換気	6
羽曳野キャンパスラーニングコモンズの充実	4
机、椅子が使いにくい	3
入室手続きが面倒	2
貸出PCが少ない	2

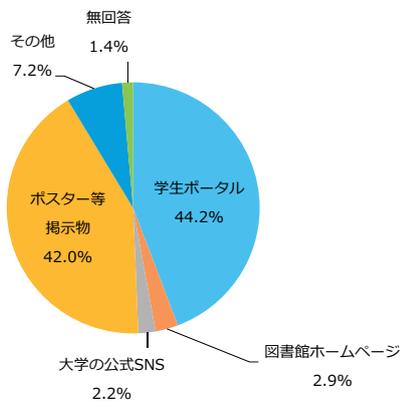
6-1. 図書館で開催されたイベントや企画、講習会に参加したことがありますか。

- はい
○いいえ



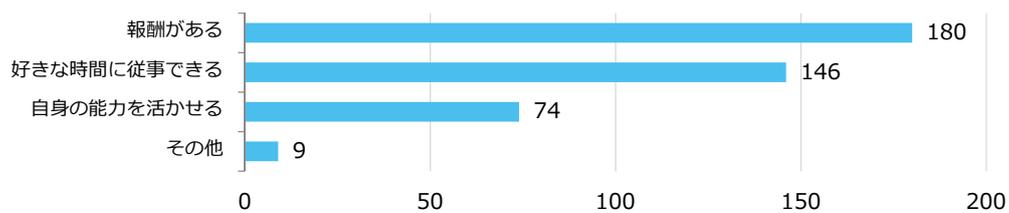
6-2. 6-1で「はい」と答えた方はイベント等の情報はどのようにして知りましたか。

- 学生ポータル ○図書館ホームページ
○大学の公式SNS ○ポスター等掲示物 ○その他



6-5. 6-4で「はい」「条件が合えば従事したい」を選んだ方は、どのような条件であれば従事したいですか。(複数回答可)

- 好きな時間に従事できる 報酬がある 自身の能力を生かせる その他



6-6. 6-5で「その他」を選んだ方は記入してください。

自分の興味、関心があるイベント	8
羽曳野キャンパスで参加できる	2

6-7. 今後、図書館で実施してほしい企画があれば教えて下さい。

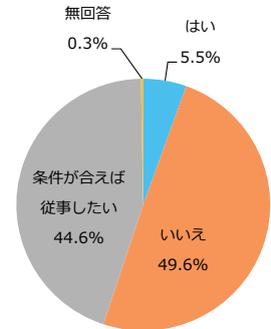
著者や作家による講演会、トークイベント	21
おすすめ本、テーマにそった本の紹介	19
ポイント、プレゼント企画等	6
ビブリオバトル	5
図書館利用法講習会	5
勉強法の紹介、勉強会	5
レポート、論文の書き方講習会	4
パソコン、ソフトの使い方講習会	4

6-3. 6-2で「その他」を選んだ方は具体的に記入してください。

教員からの紹介、授業での紹介	6
友人からの情報	3
部活、サークルへの依頼	3

6-4. 図書館で開催されるイベントや企画にスタッフとして従事してみたいと思いますか。

- はい
○いいえ
○条件が合えば従事したい



7. 図書館・図書室に対する要望があれば教えて下さい。

収集資料について		61
蔵書の充実		45
(内訳)	教科書・参考書等を増やしてほしい	25
	語学参考書 (TOEIC、TOEFL、IELTS、韓国語) を増やして最新版と入れ替えてほしい	6
	教科書や参考書の最新版をできるだけ早く揃えて冊数を増やしてほしい	4
	専門書類を定期的に更新してほしい	4
	総合図書館中舌島に医学、薬学、看護の本を置いてほしい	2
	数学の本を増やしてほしい	2
	洋書の教科書を増やしてほしい	2
	資格関連の参考書を増やしてほしい	1
	りんくう図書室と総合図書館中舌島に同じ本を置いてほしい	1
	過去の論文すべてを閲覧したい	1
	工学の雑誌を増やしてほしい	1
	学習に関する漫画を増やしてほしい	1
一般図書を増やしてほしい		14
	小説、読み物の本を増やしてほしい	10
	文庫本を増やしてほしい	2
	シリーズものの小説は最後の巻まで揃えてほしい	1
	趣味実用書を置いてほしい	1
羽曳野図書センターへの要望		3
	東野圭吾の小説を増やしてほしい	1
	新しい医療書を揃えてほしい	1
	看護に比べりハビリの本が少ない	1
良く借りられている本は冊数を増やしてほしい		2
新聞の種類を増やしてほしい		1
配架場所		5
(内訳)	本が探しにくい	1
	学部、授業、科目別コーナーを作ってほしい	1
	地下書庫の本のうち、検索頻度や利用頻度の高いものを2階にも置いてほしい	1
	同じような内容の本をまとめて置いてほしい	1
	ポップを設置したら本の魅力がより伝わるのではないか	1
選書等		3
(内訳)	図書リクエストの審査を迅速化してほしい	1
	選書委員制度以外にも図書の購入をリクエストできる制度が欲しい	1
	学生の図書委員制度を導入してほしい	1
視聴覚資料		3
(内訳)	CD、DVDを持ち出し可能にしてほしい	2
	持ち出し禁止のCDがパソコン以外で聴けるよう、CDプレイヤーを設置してほしい	1
電子ジャーナル、データベース		5
(内訳)	電子的に読める新聞の種類を増やしてほしい	1
	電子書籍の種類を増やしてほしい	1
	電子ジャーナルの種類を増やしてほしい	1
	英語の専門的な論文の探し方が分からないことがある	1
	超効率的な論文検索がしたい	1
図書館の施設、環境について		60
座席等		31
(内訳)	席数が少ない	13
	椅子が低い。座面が固い。座面の高さを変えられる椅子を導入してほしい。	5
	座席に付いているコンセントの数を増やしてほしい	4
	座席に仕切りを設置してほしい	3
	座席近くにごみ箱を設置してほしい	3
	一人席を設置してほしい	1
	ウェブ上で空席状況の確認や座席の予約をしたい	1
	ミーティングスペースを増やしてほしい	1
館内パソコンおよび貸出パソコン、プリンター		18
(内訳)	館内パソコンを増設してほしい	7
	貸出パソコンを充電された状態で貸し出してほしい	3
	貸出パソコンの性能を上げてほしい	2
	貸出パソコンにプログラミングの環境を整えてほしい	1
	貸出パソコンからWi-Fiへの接続を簡単にしてほしい	1

		貸出パソコンの起動が遅く使いづらい	1
		タブレットを貸し出してほしい	1
		ジャーナルの図や表をカラーで印刷したい	1
		プリントアウトができるようにしてほしい	1
	空調		5
(内訳)		冷房が強すぎる	2
		夏場の冷房の温度を下げしてほしい	2
		空調が暑かったり寒かったりして勉強するのに適していない時がある	1
	その他		6
(内訳)		館内が暗い	2
		ラーニングコモンズとの間の壁を分厚くしてほしい	1
		館内にカフェを併設してほしい	1
		りんくう図書室を広くしてほしい	1
		クラシック音楽を流してほしい	1
図書館サービスについて			50
開館時間の延長、土日開館			30
(内訳)	開館時間の延長		25
		開館時間（平日、夜間）を延長してほしい	11
		土日、長期休暇中の開館時間を延長してほしい	7
		試験期間中の開館時間を延長してほしい	5
		朝早く開館してほしい	1
		24時間開館してほしい	1
	休日開館		4
		土、日や長期休暇中の開館日を増やしてほしい	3
		羽曳野図書センターを日曜も開館してほしい	1
		Uホールホワイエの開放日時を明確にしてほしい	1
貸出・返却			9
(内訳)		返却ポストを門や各棟に増設してほしい	3
		貸出期間を長くしてほしい	2
		返却ポストをいつでも使えるようにしてほしい	1
		貸出期間の延長回数を2回に増やしてほしい	1
		貸出手続きをせずに図書室から本を持ち出せないようにしてほしい	1
		返却日のリマインドメールを送ってほしい	1
ウェブサイト等			5
(内訳)		MyLibraryやOPACをスマートフォン対応にほしい	2
		グループ研究室の空室状況をウェブで確認したい	1
		新着図書のお知らせをメールで配信してほしい	1
		図書のレビューができれば面白いのではないかな	1
イベント、展示			6
(内訳)		イベントをもっと広報してほしい	2
		ロビーでイベントを開催する場合、お昼の時間帯を避けるかロビー以外の場所で開催してほしい	1
		1回生ポイントカードシステムのように、ポイントを貯められる企画をまた実施してほしい	1
		展示の頻度を増やしてほしい	1
		入り口付近は立ち止まって見づらいため、貴重図書の展示場所を変更してほしい	1
利用ルール、マナーについて			14
館内での飲み物			8
(内訳)		飲み物をのめるようにしてほしい。蓋つきの飲み物、ペットボトルは許可してほしい	7
		紙パック飲料は自己責任で机の上に置かせてほしい	1
府民利用者			4
(内訳)		試験期間の府民利用制限期間を延ばしてほしい	2
		府民利用者がうるさいことがある	1
		府民利用者が新聞閲覧席を長時間使用しており、利用できないことがある	1
モラルのない利用者へ注意喚起を行ってほしい			2

Library Months

学生の図書館利用や読書活動の促進を図るため、Library Monthsと称して2014年度から毎年春と秋に様々なイベントを企画している。

1 Library Months Spring (期間：2019年4月2日～5月31日)

(1) テーマ展示「新入生に薦める100冊の本」

期 間：4月2日～5月31日

新入生を対象に本学教員が選んだ「学生に今読んでほしい本」100冊を、総合図書館中百舌鳥および羽曳野図書センターで展示した。期間中、のべ280冊の貸出利用があった。

また、冊子「読ン得本々」を作成し新入生に配布した。同冊子は大阪府立大学学術情報リポジトリOPERAに掲載し公開した。



図書の展示



読ン得本々

(2) 脱出ゲーム『図書館×謎解き』「府大図書館に届いた謎の本」

期 間：4月2日～5月31日

「F-enigma府大謎解きイベント制作団体」の協力のもと、総合図書館中百舌鳥が舞台となる脱出ゲームを開催した。このゲームは謎解きをしながら館内をくまなく回り、自然に図書館を詳しく知ることができる仕組みとなっていた。難易度の高いものであっ

たが、最後の答えに辿り着いた参加者もいた。



イベント案内

(3) ポイントカードサービス

期 間：4月2日～9月25日

学域新入生向けに、図書の貸出やイベント参加でポイントが集まるポイントカードを発行。25ポイントを獲得した6名にはクリアファイル、ふせん、缶バッチのいずれかを、50ポイントを獲得した12名には金のしおりや手刷りのブックカバー等を進呈した。



広報チラシ

(4) ライブラリーステージ

日 時：4月17日、24日、5月15日、29日

※いずれも12：20～12：40

場 所：総合図書館中百舌鳥ロビー

本学の学生クラブ4団体(奇術部、男女混声合唱団エヴァコール、ボランティア・市民活動センターV-station、謎解きイベント制作団体F-enigma)によるクラブ紹介のほか、おすすめの本の紹

介があった。



ボランティア・市民活動センターV-stationによる発表

(5) ライブラリートーク

日 時：4月23日 13：00～14：20

場 所：Uホール白鷺

講 師：川口 淳一郎 氏

(宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙科学研究所)

参 加：454名

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトでプロジェクトマネージャーを務めた川口淳一郎氏に、ご自身が携わる研究やプロジェクトについてお話いただいた。これま

でライブラリートークは総合図書館中百舌鳥のロビーを開催場所としてきたが、本講演は参加希望者が多かったためUホール白鷺



川口氏による講演

での開催となった。参加者からは、「専門外のテーマであったが、わかりやすいお話で楽しむことができた。」といった感想が寄せられた。

(6) 楽しみながら英語力がつく英語多読入門講座

日 時：5月15日 14：35～16：15

場 所：B2棟ラーニングコモンズ

講 師：稲垣スーチン准教授 (高等教育推進機構)

参 加：15名

図書館所蔵の英語多読のためのリーダーズ資料を使用し、英語多読の学習法を学ぶ講座を実施。多読学習法のポイントや多読実践

の事例紹介の後、全員で多読を実践した。現代システム科学域、工学域の学生を中心に、多くの新入生も参加した。



講座の様子

2 Library Months Autumn (期間：2019年9月30日～10月31日)

(1) 物臭太郎杯 読書感想句コンクール

期 間：9月30日～10月25日

図書館が所蔵する本を対象に、その内容をユーモアや風刺のセンスで表現した川柳を募集。応募作品31句の中から入選作品10句を対象に投票を実施し、のべ54票の投票結果からベスト3を決定した。入選作品10句と当該図書は、総合図書館中百舌鳥内で

展示を行った。



入選作品の展示

(2) 読書の秋！好きな本を紹介しよう

日 時：10月1日～11月29日

場 所：総合図書館中百舌鳥

図書館所蔵の本の紹介コメントを募集し、「本のPOP講習会（後出）」で作成された作品とともに計15冊の本を展示した。



図書の展示

(3) テーマ展示「ダイバーシティ-多様性-について考える」

日 時：10月16日～12月28日

場 所：総合図書館中百舌鳥

「ダイバーシティ(多様性)」をテーマに関連図書を191冊展示した。期間中、のべ199冊の貸出利用があった。



図書の展示

(4) ライブラリートーク

日 時：10月24日 16:15～17:15

場 所：総合図書館中百舌鳥ロビー

講 師：橋爪 紳也 教授

(研究推進機構／本学観光産業戦略研究所長)

参 加：20名

「いのち輝く未来社会のデザイン-1970大阪万博から2025大阪・関西万博に向けて-」と題してトークイベントを実施した。

併せて、10月1日～31日まで総合図書館中百舌鳥1階で万博や大阪にまつわる図書を展示した。



橋爪教授による講演

(5) 本のPOP講習会

日 時：10月29日 14:35～16:05

場 所：B2棟ラーニングコモンズ

講 師：松下 智子 氏 (株式会社 紀伊國屋書店)

参 加：10名

図書館所蔵の本を対象にPowerPointを用いてPOPを作成する講習会を開催した。参加者には図書館オリジナルのマスクングテープを進呈した。



講習会の様子



展示作品

(6) レポート・論文執筆時の文献検索法講習会

日 時：10月11日、24日、31日 (中百舌鳥キャンパス)

10月8日 (羽曳野キャンパス)

参 加：計55名

提供元から講師を招いて中百舌鳥キャンパスで3回 (SciFinder、Scopus・Mendeley、日経テレコン・日経BP記事検索サービス)、羽曳野キャンパスで1回 (CINAHL Plus with Full Text) 講習

会を実施した。講師からは、データベースの基本的な使い方や、登録方法などの説明があった。



実習室での講演会風景

(7) スポーツの秋！ポッチャ体験会

期 間：11月1日

講 師：ポッチャ部顧問 奥田 邦晴 教授

(総合リハビリテーション学研究科、一般社団法人日本ポッチャ協会代表理事)

場 所：C5棟前広場

本学ポッチャ部と奥田教授をアドバイザーとして、パラリンピッ

ク正式種目「ポッチャ」の体験会を開催した。教職員、学生 (留学生を含む) のほか、府民の参加もあった。



体験会の様子

■ テーマ展示

学生の読書活動促進のため、総合図書館中百舌鳥と羽曳野図書センターでテーマ展示を実施している。総合図書館中百舌鳥では、Library Monthsと連動したテーマでも実施した。（“Library Months”参照）

テーマ展示一覧

場 所	タイトル	開 催 日	展示冊数	貸出数
総合図書館 中百舌鳥	新入生に薦める100冊の本※1	2019年4月2日～5月31日	94	280
	SDGsを知るための121冊の本	2019年6月10日～10月11日	121	216
	ミニ展示 EXPO 1970-2025	2019年7月1日～10月11日	21	15
	ダイバーシティ(多様性)を考える	2019年10月16日～12月28日	191	199
	学生選書※2	2020年1月6日～3月31日	283	494
羽曳野 図書センター	新入生に薦める100冊の本※3	2019年4月2日～5月31日	15	8
	“料理”というクリエイティブな行為：おいしいアイデアの本	2019年12月2日～2020年2月28日	50	20
	学生選書2019※4	2020年1月6日～3月31日	52	36

※1 新入生を対象に本学教員が推薦する100冊を展示

※2 中百舌鳥キャンパス所属の学生選書委員が選んだ本を展示

※3 「新入生に薦める100冊の本」のうち、看護学研究科、総合リハビリテーション学研究科教員が推薦する本を展示

※4 羽曳野キャンパス所属の学生選書委員が選んだ本を展示

■ 貴重図書特別部会講演会 『源氏物語の意匠—華道・香道・衣装—』

本学が所蔵する貴重図書を広く学外の方に知ってもらうために、毎年、上方文化研究センターと共催し大阪府立大学貴重図書特別部会講演会を実施している。2019年度は、同志社大学文学部の岩坪健教授を講師として、源氏物語の意匠をテーマとした講演と展示を開催した。

- 日 時 2019年11月29日 14:00-15:30
- 場 所 I-siteなんば 2階カンファレンスルーム
- 受講料 1,000円
- 参加者 44名

◇講演会

講 師：岩坪 健 氏
(同志社大学文学部教授)

源氏物語の世界を五感で味わっていた時代の暮らしが、物語の内容を生け花で表現する「源氏流生け花」、物語の一場面を再現する「源氏香」や着物のデザイン、そしてゆかりの和菓子などの具体例を挙げて紹介された。源氏物語は後世の文学だけでなく伝統文化にも大きな影響を与えていたとのことである。



岩坪氏による講演

◇展示資料6点

- 新版画合源氏双六
- 源氏飛双六
- 絵入源氏物語
- 源氏大和絵鑑
- 源氏物語錦絵
- 源氏物語錦絵 [複製]



展示の様子

■ 貴重図書《展観と講演》『絵双六と源氏物語』

大阪女子大学附属図書館が2005年度から開催していた貴重図書の「展観と講演」を継承している。2019年度は、人間社会システム科学研究科の青木賜鶴子教授を講師として、絵双六と源氏物語をテーマとした講演と展示を開催した。

- 日 時 2019年10月28日 14:00-15:30
- 場 所 学術情報センター 2階中会議室
- 受講料 1,000円
- 参加者 17名

◇講演会

講 師：青木 賜鶴子 氏

(人間社会システム科学研究科教授)

当館所蔵「新版画合源氏双六」に「修紫田舎源氏」の影響が強く見られることから、源氏物語が当時の人々にどう受け止められていたのかを知る手がかりとして、絵双六の歴史が紹介された。双六には「盤上双六」と「絵双六」の二種類があり、絵双六は印刷技術が発達した江戸時代に流行し、名所や読み物を題材にしたものが多く作られたが、明治時代になると広告や教育目的のものも作られるようになったとのことである。



青木氏による講演

◇展示資料7点

- 新版画合源氏双六
- 源氏飛双六
- 修紫田舎源氏
- 台所唐人おどけ双六
- 文明遊名誉双六
- 西洋すごろく
- ウイルソン氏リードル双伍呂久



展示の様子

■ 貴重図書展示

貴重図書特別部会において年間計画を立て、本学が所蔵する貴重図書を総合図書館中百舌鳥1階、経済・経営・法律系図書室およびI-siteなんば3階で展示している。2019年度の展示内容は以下のとおり。

<総合図書館中百舌鳥 1階貴重書展示コーナー>

■『貴重書名品展』2019年4月～6月

道成寺の縁起を記した「道成寺縁起絵巻」などを展示した。

展示資料 11点

- 道成寺縁起絵巻 写 二巻
- はちかつき 写 三冊
- 延宝六年歳旦巻物 写 一冊
- 源氏物語錦絵 刊 一合
- 源氏物語絵詞 写 一冊
- 織合襦袢錦 写 四冊
- 二狂人 二葉亭四迷自筆原稿 五十枚
- 和英商売対話集 初編 刊 一冊
- 神曲 刊 一冊
- Japanese Fairy Tale Series 刊 二十冊
- 二葉亭四迷全集 第三巻



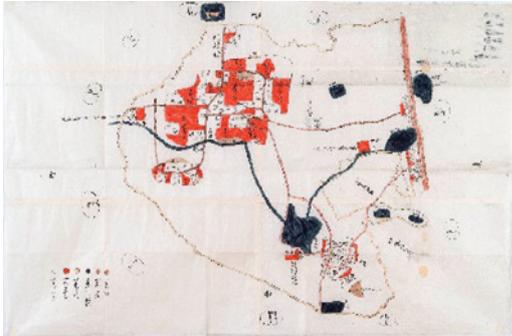
道成寺縁起絵巻

■『江戸時代の絵図』2019年6月～7月

江戸時代の絵図を展示した。

展示資料 3点

- [和泉国大鳥郡土師村絵図] 一鋪
- [和泉国泉郡三林村絵図] 一鋪
- [讃岐国小豆島絵図] 一鋪



和泉国大鳥郡土師村絵図

■『絵で見る古典』2019年8月～9月

室町時代の奈良絵本「岩屋草子」など絵入で楽しめる資料を展示した。

展示資料 12点

- 物臭太郎 写 一巻
- おさな源氏物語 刊 五冊
- 岩屋草子 写 横一冊
- 糸ほしをり 写 横二冊
- 扇面単語図解 一枚
- 絵入竹取物語 刊 二冊
- 和泉名所図会 刊 四冊
- ウイルソン氏リードル双伍呂久 一枚
- 浪華の家つと 刊 横一冊
- 画本古鳥図賀比 刊 一冊
- 料理切形秘伝抄 刊 横三冊
- Japanese Fairy Tale Series 刊 二十冊



ウイルソン氏リードル双伍呂久

■『源氏物語の世界』2019年10月～12月

「源氏飛双六」など源氏物語に関する資料を展示した。

展示資料 11点

- 新版 画合源氏双六 写 一鋪
- 源氏飛双六 写 一枚
- 源氏物語絵詞 写 一冊
- 絵入源氏物語 刊 三十冊
- 絵入源氏小鏡 刊 三冊
- 十帖源氏 刊 九冊
- 源氏物語大概抄 刊 三冊
- おさな源氏物語 刊 五冊
- 源氏大和絵鑑 刊 二冊
- 源氏物語錦絵 刊 一合
- 源氏物語絵尽大意抄 写 一冊



源氏飛双六

■『歳時記“春”』2020年1月～3月

「摂津名所図会」「和漢三才図会」など旧暦の春や干支にちなんだ資料を展示した。

展示資料 12点

- 摂津名所図会 刊 大十二冊
- 大和名所図会 刊 大七冊
- 改正月令博物筌 春の部 刊 横十二冊
- 小笠原流五節句飾 写 一巻
- 風月往来 刊 大一冊
- 民間年中故事要言 写 大七冊
- 精進料理献立集 刊 横一冊
- 源氏物語錦絵 刊 一合
- 広重魚貝板画 折 一帖
- 百躰百人一首 折 二帖
- 和漢三才図会 刊 大八十一冊
- 翻刻江戸時代料理本集成 第九巻河内名所図会 刊 大六冊



小笠原流五節句飾

<経済・経営・法律系図書室 展示コーナー>

『和泉国の名品・名産』（2019年4月8日～9月25日）

『堺紡績所－2番目の近代的紡績工場－』

（2019年9月27日～2020年4月7日）



堺紡績所－2番目の近代的紡績工場－

<I-siteなんば3階 展示コーナー>

（レプリカを展示）

『台所唐人おどけ双六』（2019年4月7日～11月28日）

『源氏飛双六』（2019年11月29日～）



源氏飛双六

■ 資料展示コーナー historia

2017年に開設した資料展示コーナー historiaは、大阪府立大学大学史編纂研究所と各研究科・学域・機構、および大阪女子大学同窓会「斐文会」の協力を得て、大阪府立大学の歩みを示す写真や文書などさまざまな資料の常設展示及び企画展示を実施している。

<企画展示>

「大阪社会事業短期大学の歩み」

■ 展示期間：2019年4月2日～2019年9月30日

■ 展示資料：2点

- 大阪社会事業短期大学校歌歌詞（複製）小野十三郎



- 大阪社会事業短期大学校歌楽譜（複製）芥川也寸志



「大阪府立放射線中央研究所の歩み」

■ 展示期間：2019年10月1日～2020年3月31日

■ 展示資料：4点

- 大放研十年の歩み
大阪府立放射線中央研究所 1969（昭和44）年
- 大放研三十年の歩み
大阪府立放射線中央研究所 1989（平成元）年
- 研究計画書 大阪府立大学附属研究所 1990（平成2）年
- 大阪府立大学先端科学研究所 本館・開所記念式典 次第
大阪府立大学 1995（平成7）年



展示の様子

■ 利用案内・講習

本学所蔵資料や本学で利用可能な電子ジャーナル・データベースを有効に活用してもらうため、学生や教職員を対象とした利用案内・講習会等を実施している。

1 全学共通科目「初年次ゼミナール」での図書館ツアー

「初年次ゼミナール」は2012年度に始まった全学1年生必修の科目である。少人数クラスで実施され、「知識・情報の収集が積極的にできる」こと、「得た情報や自分の考えを表現・発表できるようにする」ことなどが目標とされており、その目標達成の一助となるよう、授業担当教員からの申し込みによって図書館ツアーを実施している。

実施状況

- 実施クラス数 79クラス（初年次ゼミナール開講 98クラス）
- 実施日時 2019年4月9日～5月29日
- 参加人数 1,154名
- 内 容 施設案内
総合図書館中百舌鳥B 1F、1F、2F
ラーニングcommons（C5棟、B2棟）
利用方法の説明
グループ研究室、貸出パソコンの利用
- 開始時刻を授業前半と後半に分けて45分間で実施



2F開架

B1F書庫

2 オンデマンド講習会

本学学生・院生・教職員を対象に、学類、研究室、ゼミ（初年次ゼミナール含む）、講義等の単位または個人での申込みを受け付け、日時、場所、内容等は申込者の要望に合わせて調整のうえ実施している。

実施状況

- 実施回数：全28回（うち初年次ゼミナール11回）
- 参加者数：のべ453名（うち初年次ゼミナールのべ154名）

講習内容

- (1) 館内案内
- (2) 蔵書検索（本学OPAC及びWebサービス利用法）
- (3) 国内文献の探し方（EJ・DB利用法）※
- (4) 海外文献の探し方（EJ・DB利用法）※
- (5) 文献整理法（おもにMendeleyの利用法）

上記を希望に応じて、組み合わせて実施。

※EJ：電子ジャーナル、DB：データベース

<2019年度 オンデマンド講習会一覧>

開催日	場 所	実施単位・学年	参加 人数	内 容				
				館内案内	蔵書検索	国内文献	海外文献	文献整理法
4月 8日	羽曳野L202	総合リハビリテーション学研究科・M1	13		○	○		
4月15日	グループ研究室No5	人間社会システム科学研究科・M1	2	○	○	○	○	○
4月15日	羽曳野L202	総合リハビリテーション学研究科・M1	14				○	
4月17日	グループ研究室No5	教育福祉学類・4年	5	○	○	○		○
4月17日	C5棟3F アスパン	初年次ゼミナール・1年	14		○	○		
4月18日	B3-311 Bスパン	初年次ゼミナール・1年	19		○	○		○
4月18日	B3-311 Aスパン	初年次ゼミナール・1年	14		○			
4月22日	羽曳野L202	看護学研究科・M1	20		○	○		
4月22日	羽曳野L202	看護学研究科・M1	20				○	
4月25日	B5棟2B40	初年次ゼミナール・1年	12			○		
4月25日	B3-311	初年次ゼミナール・1年	14		○	○		○
4月25日	B5棟2B40	初年次ゼミナール・1年	15		○	○		○
4月26日	グループ学習室No1	看護学類・4年	1		○	○		
5月 8日	羽曳野L202	総合リハビリテーション学類・3年	25			○	○	
5月 8日	C5棟3F アスパン	初年次ゼミナール・1年	15			○	○	
5月 8日	C5棟3F アスパン	初年次ゼミナール・1年	14			○		
5月15日	B3-311 Aスパン	初年次ゼミナール・1年	55		○	○		
5月22日	C5棟3F アスパン	初年次ゼミナール・1年	14		○	○	○	
5月29日	C5棟3F アスパン	初年次ゼミナール・1年	14			○	○	
5月30日	グループ研究室No1	教育福祉学類・1年	1		○	○		
6月 3日	グループ研究室No1	教育福祉学類・1年	1				○	
7月 8日	グループ研究室No1	人間社会システム科学研究科・院生	1				○	
7月10日	グループ研究室No5	教育福祉学類・3,4年	5			○		
8月 7日	グループ研究室No1	人間社会システム科学研究科・院生	1					○
10月 4日	B5棟2B40	人間社会システム科学研究科・院生	12			○	○	○
10月11日	B5棟2B40	人間社会システム科学研究科・院生	12				○	○
12月25日	羽曳野L202	看護学類・3年	60			○	○	
12月25日	羽曳野L202	看護学類・3年	60			○	○	

3 「レポート・論文執筆時の文献検索法」講習会

図書館が契約しているデータベースの一部について、提供元の専門家による実習形式の講習会を実施している。2019年度は、6-7月と10月に中百舌鳥キャンパスで、8月と10月に羽曳野キャンパスで、計9回実施した。参加者数はのべ169名であった。



6月13日 SciFinderの講習会



7月12日 Scopusの講習会

◆6-7月 中百舌鳥キャンパス◆

開催日	データベース等	場 所	講 師	参加人数
6月 4日	ABI/INFORM collection	学術情報センター 実習室Aスパン	小林 隼 氏 (ProQuest)	13
6月13日	SciFinder	B5棟2B40	千葉 康広 氏 (化学情報協会)	16
6月14日	EBSCOhost (Academic Search Premier・CINAHL Plus with Full Text・EconLit)	学術情報センター 実習室Aスパン	竹内 美苗 氏 (EBSCO Information Services Japan)	15
7月12日	Scopus	学術情報センター 実習室B・Cスパン	瀧本 まゆみ 氏 (エルゼビア・ジャパン)	38
	Mendeley			24

◆8-10月 羽曳野キャンパス◆

開催日	データベース等	場 所	講 師	参加人数
8月19日	Nursing and Allied Health database	羽曳野キャンパス L202	小林 隼 氏 (ProQuest)	8
10月 8日	CINAHL Plus with Full Text	羽曳野キャンパス L202	山本 一了 氏 (EBSCO Information Services Japan)	7

◆10月 中百舌鳥キャンパス◆

開催日	データベース等	場 所	講 師	参加人数
10月11日	SciFinder	B5棟2B40	千葉 康広 氏 (化学情報協会)	7
10月24日	Scopus	学術情報センター 実習室B・Cスパン	瀧本 まゆみ 氏 (エルゼビア・ジャパン)	17
	Mendeley			13
10月31日	日経テレコン・日経BP記事検索サービス	学術情報センター 実習室Aスパン	日経メディアマーケティング株式会社より 講師派遣	11

■ 主な刊行物

『大阪府立大学 学習環境利用ガイド 2019』 2019年4月1日発行 全93ページ



本学図書館の利用方法ならびに資料の探し方の説明を69ページから91ページに掲載。

- ・図書館施設案内
- ・図書・学術資料の利用
- ・ラーニングコモンズ
- ・貸出パソコンサービス
- ・コレクション
- ・フロアガイド

『アウリオン第47号』 2019年7月9日発行 全8ページ



- ・ライブラリートーク
- ・ライブラリーステージ
- ・楽しみながら英語力がつく「英語多読入門」講座
- ・テーマ展示「新入生に薦める百冊の本」
- ・新入生向けポイントカード
- ・図書館×謎解き「府大図書館に届いた謎の本」
- ・テーマ展示「ごがくのご」 「防災のススメ」
- ・貴重図書特別部会講演会「漱石の魅力」
- ・展覧と講演「幕末の英語学習」
- ・図書館長・専門図書室長からのメッセージ
- ・図書館のヒミツ
- ・図書館統計
- ・本と私「ファール昆虫記—今も輝きを失わない昆虫記の古典—」
- ・編集後記



学術情報リポジトリOPERAへリンク

『アウリオン第48号』 2020年1月15日発行 全8ページ



- ・ライブラリートーク
- ・スポーツの秋！ポッチャ体験会
- ・読書の秋！好きな本を紹介しよう
- ・読書感想句コンクール 物臭太郎杯
- ・テーマ展示「SDGsを知るための121冊の本」
- ・Pick Up「電子ブックを読んでみよう！」
- ・図書館探訪
- ・図書館からのお知らせ
- ・図書館のヒミツ
- ・編集後記



学術情報リポジトリOPERAへリンク